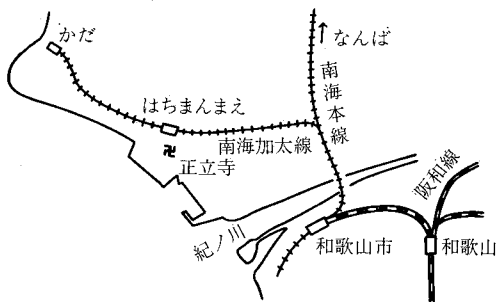


関西天文ハイキング (10)

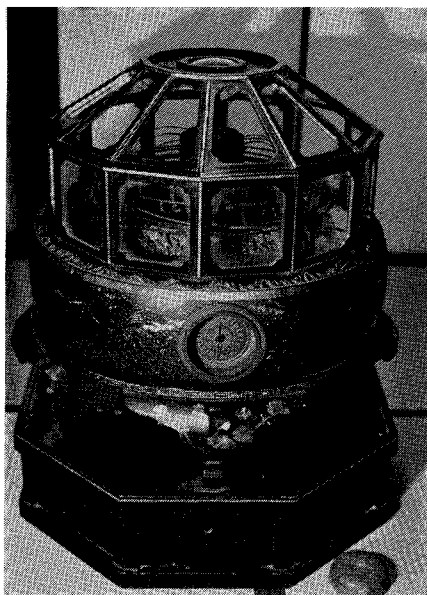
正立寺と中谷桑南

和歌山市の西北にある正立寺に須弥山儀や天球儀、渾天儀、望遠鏡、曆本などが多数保存されている。幕末の頃、この寺の養子となった中谷桑南(1819-1883)は、京都東本願寺の大学林(現竜谷大学)で学んだ後、仏教天文学研究のため、広島佐多介石と共に天竜寺管長環中に師事した。そして三台の須弥山儀などを作ったが、その一つがこの正立寺に現存し、他の一つは加賀前田侯のもとからボストン博物館に、残りの一つは東本願寺に納められたという。正立寺のものは、四季や月・日・時刻が時計仕掛けで表示され、上部には、赤道・黄道・白道を表わす三つの大輪がある。



桑南はこれらの天文学具を持って全国を遊説し、また自作の望遠鏡で惑星を観測したり曆を作ったりした。全国各地から延べ200人もの人々が彼の教えを受けるために集まって来たという。彼が亡くなった時、それと時を同じくして、それまで時を報じていた須弥山儀の分銅の糸が大きな音と共に切れたという。

なお、桑南ゆかりの天文学具は一般公開はされていないが、前もって見学目的など連絡しておけば見せてもらえるようである。(星の広場 加茂 昭・和歌山市こども科学館 津村光則)



須弥山儀(正立寺蔵)

◇ 10月の天文暦 ◇

日	時	記	事
2	22	月	最遠
3	19	木星	留
7	14	下弦	
8	17	寒露	(太陽黄経 195°)
14	14	朔	
15	10	月	最近
21	5	上弦	
23	20	霜降	(太陽黄経 210°)
28	13	冥王星	合
29	3	望	(月食)
30	7	月	最遠

◇ 10月の日月惑星運行図 ◇

